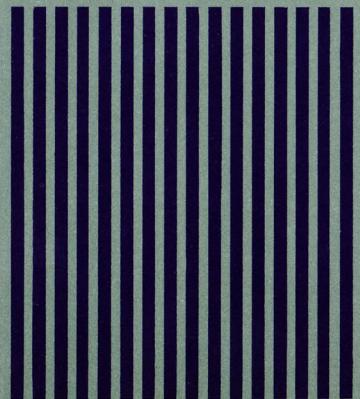
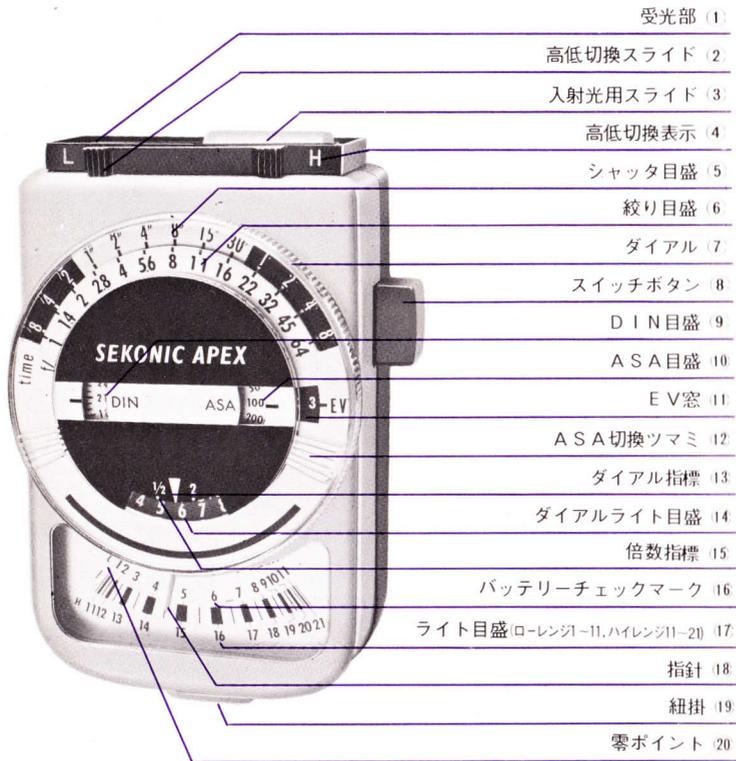


**SEKONIC**  
**APEX**  
model **L-218**

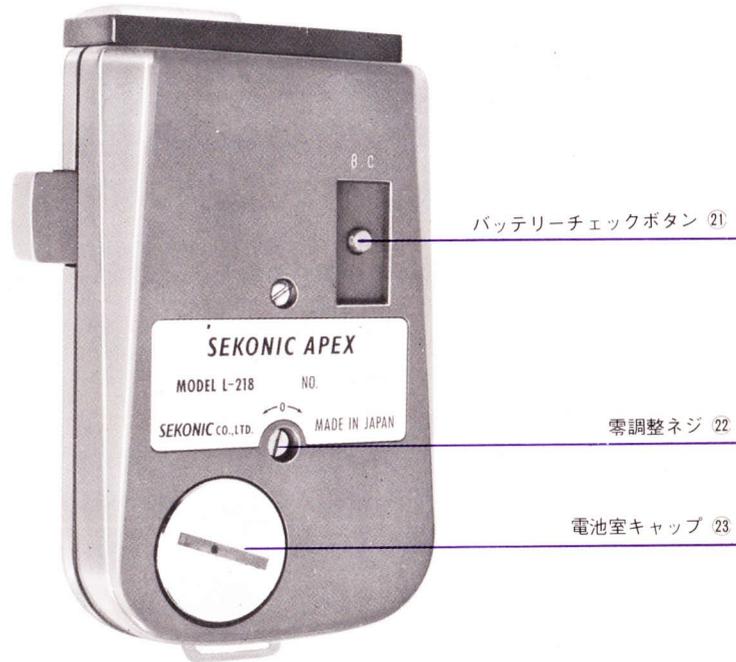


Printed in Japan. KE 7683000

# 各部名称



1



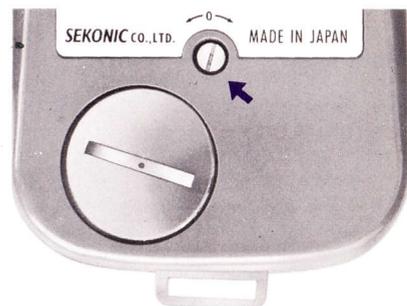
2

## 取扱い

### 1. 0位置調整

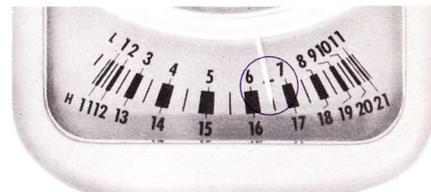
露出計は光を完全に遮断したとき、指針⑱は正しく0を示さなければ正しい測定ができません。使用する前に次の方法で0位置をチェックしてください。

検査方法：L-218型は高感度のため、光を完全に遮断することが難しいので、電池を外した状態でチェックします。電池を装填しないでスイッチボタン⑧（以下名称は2頁各部名称参照）を押します。指針⑱が零ポイント⑳を示さない場合はスイッチボタン⑧を押したまま、裏面の零調整ネジ㉒をドライバーで静かに左右に廻わして指針⑱を零ポイント㉒に合わせます。



### 2. バッテリー

バッテリーはJIS記号H-D型（ナショナルH-D、その他）水銀電池を使用します。普通の使用量で1年半程度の寿命ですが、長期間使用しないときには腐蝕を防ぐために取出しておいてください。電池室キャップ㉓は硬貨で開閉します。バッテリーチェック：スイッチボタン⑧とバッテリーチェックボタン㉑を同時に押してバッテリーチェックマーク⑱の範囲内を指針⑱が示さない場合は電圧の低下ですからバッテリーを交換してください。



## 仕様

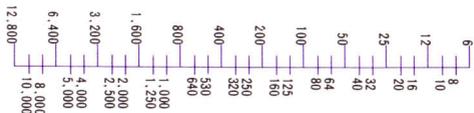
測定方式	反射光式（入射光式可能）
測定精度	±1/3絞り
測定範囲	高輝度E V 8～18（ASA100） 低輝度E V -2～8（ASA100）
受光角度	約30°（反射光式）
E V 目盛	— 6～23
A S A 目盛	6～12,000
D I N 目盛	9～42
絞り目盛	F 1～64
シャッタ目盛	30分～1/4000秒
シネ目盛	8～64 f/s
較正常数	K = 1.3 C = 25.5
サイズ	92×58×36mm
重量	210g

# 使用法

## 1. ASAナンバーのセット

フィルムのASAナンバー（感光度指数）はASA切換ツマミ⑫を廻わしてASA目盛窓の黒線とASA目盛⑩を合わせます。

ASA目盛の中間値



## 2. H・Lの切替と測定

戸外など明るい場所での測定には高低切換スライド②を左側いっぱいに変換します。受光部①を被写体に向けてスイッチボタン⑧を押し、指針⑬が止まるのを確認してからボタンを放します。高低切換表示④は「H」になっているはずですから、ロックされた針はライト目盛⑬のハイレンジ（11～21）側を読取ります。「H」表示で針が振れない場合にはスライドを右側いっぱいに変換して「L」表示にし、同じ要領で測り直してローレンジ（1～11）側の目盛を読取ります。



## 3. シャッター スピードと絞り

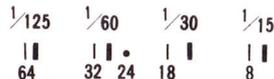


ライト目盛⑬の数字はダイヤルライト目盛⑭上でダイヤル指標⑬に合わせます。そのときの露出はシャッター目盛⑤と絞り目盛⑥の組み合わせになります。写真の例ではライト目盛8、ASA100でF2・8秒、F2.8・1/8秒……などです。シャッター目盛⑤は左側より黒バンドが1/8秒以下、白バンドが秒、黒バンドが分単位です。

1/2・2倍露出：ダイヤル指標⑬の左右にある1/2表示はそれぞれ露出を1段階切りつめる場合と、1段階増加させる場合に使用します。このときはダイヤル指標⑬に合わせる代わりに1/2または2にライト目盛⑬を合わせます。

## 4. シネ目盛

使用法及び測定法はスチールカメラ（一般の撮影）の場合と全く同じです。シネ撮影ではコマ数に対する絞り目盛⑥を読取ります。レギュラー8は16 f/s、シングル8・スーパー8は18f/sが標準コマ数です。



## 5. 入射光式と反射光式の切換

反射光式測定するときには受光部①の入射光用スライド③を「H」側に切換え、直接受光窓を出します。入射光式測定には入射光用スライド枠を「L」表示側に切換え、スライドを通して測定します。入射光用スライド③は曲面をもち、被写体と同じ条件で受光するように設計されています。

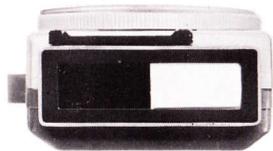
## 露出の測り方

### 1. 入射光式と反射光式

露出計には測定方式で大別すると入射光式と反射光式があります。L-218型はスライドワークにより両方使い分けることができます。

#### 入射光式測定

入射光式のとき  
入射光用スライド③をL側に

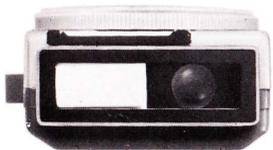


入射光式の測定は被写体に当る光量を直接測ります。被写体は明るい色、暗い色、光沢面、マット面など固有の反射率をもっていますが、この反射率に左右されずに被写体に当る平均光量を直接測りますので、標準の反射率をもつ被写体を測る場合には非常に便利です。

特に室内撮影など、光源が幾つもあり、ライティングが複雑な被写体のときにはできるだけ被写体に近寄りて入射光式測定をすると正しい露出を求めることができます。

#### 反射光式測定

反射光式のとき  
入射光用スライド③をH側に



入射光式に対して被写体に対してはね返ってくる光を測る方式で、EE、TTLカメラなども構造上反射光式をとっています。L-218型がこれ等内臓露出計と違う点は撮影意図に合わせて被写体の露出をとらえることができることです。反射光式では前述した被写体の固有反射率に影響されますので、同じ明るさでも

測るものによって針の振れが違います。また撮影する画角内に極端な明るい光が入ったり、人物撮影で青空をバックにする場合などでも露出の結果が大きく変わります。前景や人物に露出を合わせるには明るい光、青空からの光が入らないように測る必要があり、従って反射光式露出計では測定角と測定位置が重要なポイントになり、露出の測り方をマスターすることが正しい露出を求める上に大切です。

### 2. カメラ位置からの測定と被写体位置での測定

反射光式でも入射光式でも露出の測定には被写体位置で測る方法とカメラ位置から測る方法とがあります。

#### ポートレート撮影：

カメラ位置からの測定——曇天及びカメラ位置と被写体位置がともに日光に当たっているか、日陰である場合には入射光式でもカメラ位置で測ることができます。この場合、入射光棒の受け方は被写体と同じ条件で光を受けようとしなければなりません。

反射光式の場合は常に画角内の平均値を測りますからできるだけ人物の顔を狙って測ります。人物のバックに青空、白カベ、キラキラする水面などがある場合にはバックの影響を避けるために、入射光式で測るか次に述べる被写体位置での測定方式をとります。



カメラ位置からの反射光式測定



カメラ位置での入射光式測定

## 被写体位置での測定

明るいバックの人物、トーンが極端な着物の人物などを反射光式で測る場合は撮影位置から測るとバックの明るさが露出計の振れに影響を与えるので、これを避けるために人物から10～15cm程近づいて測ります。一般に人物は顔がポイントになりますので顔に露出を合わせます。このときは、平均より倍の明るさを測っていることになりますので、露出を2倍にしてください。逆にシャドウを測ってハイライトをとばす方法もありますが、いずれにしても自分やメーターの影が測定部分に入らないように注意してください。室内で入射光式測定をする場合には必ず被写体に近づいて測ります。室内の光線はちょっとした位置、方向で大きく変わりますので人物の向きを忠実に測るように気をつけなければなりません。

逆光の人物を反射光式で測る場合にはバックの光が入らないように近寄って人物を測ります。入射光式では受光部①を完全に手前に向けてシャドウ部の露出を測ります。

バックと人物の明るさが16:1以上ひらいていと人物は完全にシルエットになります。

静物、動物の写真も基本的には同じ方法で測りますが、ポートレートの顔のように露出を合わせる基準がありませんので、ステンレス、黒い着物のように極端な条件の被写体を入射光式で測る場合には補正する必要があります。

屋外の反射光式測定 バックの影響を受けないように注意します



室内の入射光式測定 できるだけ被写体で光を受けるように測ります



## 風景撮影:

前述の通り被写体位置とカメラ位置が同じ光線状態の場合には入射光式で測定の方が便利です。反射光式で山の稜線、海岸線、見晴し台などから風景を測るときには明るい空が測定角内に入り地上の被写体の露出が不足になり易いので、受光部①を地平線と足元の間に向けて測ります。またヘイズのかかった風景では $f/16$ 露出を切りつめるか、フィルターを使ってフラットな写真になるのを防ぎます。

## 3. コントラストの大きい被写体の測定

コントラストの大きい被写体の場合、その平均値で合わせる方法と明るい方か暗い方のどちらかに露出を合わせる方法があります。

**ライトバランス法:** 入射光式でも反射光式でも被写体のハイライトとシャドウのみをそれぞれ近づいて測り、両者の中間に露出を合わせます。例えばハイライトがライト目盛⑬13、シャドウが16であった場合には14と15の中間にダイヤル指標⑬を合わせます。またカラーフィルムではラチチュードがないために両極端の色をきれいに発色されることに無理があるので、場所、時間を変えてコントラストを小さくする工夫をするか、次の方法をとりまします。

**ハイライト・シャドウ法:** シャドウにポイントをおく写真では最も暗い部分を反射光式で測り、指針⑬のライト目盛⑬に黒白フィルムで3、カラーフィルムで2をプラスしてダイヤル指標⑬に合わせます。最も暗い部分は露出アンダーになるが全体にシャドウ部に露出のあった写真になります。反対にハイライトが重要なときはハイライト部を測り、そのライト目盛⑬から黒白フィルムで3、カラーフィルムで2を引いて露出を合わせます。最も明るい部分は露出オーバーで白くどびますが、ハイライト部分に調子のととのった写真になります。

## 4. 非常に暗い場所及び夜景の測定

ローレンジに切換えても針が振れない場合にはASA目盛⑩を $f/16$ にしたのち、被写体面に白い紙を置いて15～20cm程の距離から反射光式で測ります。

## 暗い室内の撮影

暗い室内では明るい部分に受光部①を向けて測り、撮影意図に合わせて補正してください。

例えばスタンドの明りを測って、この露出を1段階づつ増していきますと、露出を増すに従って室内の暗い部分にも露出が合い、それぞれ違った写真になります。作例では人物も十分に測定できる明るさです。人物に受光部を向けて露出をきめています。カラーフィルムでは光源とフィルムタイプによって結果が大きく変わります。



## ●使用上の注意

1. 長時間湿気の多い場所に置かないでください。
2. 60℃以上の場所にメーターを置かないでください。
3. ショックはさけてください。
4. 長期間使用しないでおく場合には水銀電池を取り出し、湿気を与えないように木の箱などに入れて保存してください。尚、スチール製の箱、机の引出しはさけてください。
5. 水銀電池を電池室に入れる時は接触不良を防止する為に電池と接点を乾いた布で良く拭いてください。
6. 水銀電池や接点に電池の排気ガスによる白色の粉末が付着することがありますが、接触不良の原因となりますので乾いた布で良く拭きとってください。



発売元  
株式会社

## コパル

東京営業所 ● 〒105 東京都港区芝西久保桜川町7(23森ビル) 03(503)3891(代表)  
大阪営業所 ● 〒541 大阪市東区本町2-25 06(251)1621(代表)  
名古屋営業所 ● 〒460 名古屋市中区大須3-5-10 052(262)4471(代表)  
福岡営業所 ● 〒812 福岡市博多区奈良屋町1-20 092(281)1947(代表)  
札幌営業所 ● 〒060 札幌市中央区南2条西1-1(安藤ビル) 011(221)8707(代表)  
広島営業所 ● 〒730 広島市富士見町11-50(第2仙波ビル) 0822(46)0481(代表)  
仙台営業所 ● 〒980 仙台市一番町1-4-30(睦屋ビル) 0222(27)0725(代表)  
本社・工場 ● 〒174 東京都板橋区志村2-16-20 03(965)1111(大代表)



製造元  
株式会社

## セブシ

セコニック東京支店 ● 〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8新幹ビル03(269)7241-4  
サービス課